

4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

成人市中肺炎の患者様の人数を重症度別に集計しました。重症度は、成人市中肺炎診療ガイドライン(日本呼吸器学会)による※重症度分類(A-DROPスコア)を用いて分類しました。
A-DROPとは5つのチェック項目の頭文字をつなげたものであり、スコア0を軽症(外来治療)、1~2を中等度(外来または入院治療)、3を重症(入院治療)、4~5を超重症(ICU治療)として推奨される治療環境を簡便に判断できるようにしています。

A-DROPスコア

- ・A(Age; 年齢): 男性70歳以上、女性75歳以上
- ・D(Dehydration; 脱水): BUN(尿素窒素) 21mg/dL以上、または脱水あり収縮期血圧90mmHg以下
- ・R(Respiration; 呼吸): SpO₂(酸素飽和度) 90%以下(PaO₂(動脈血酸素分圧) 60Torr以下)
- ・O(Orientation; 見当識): 意識障害あり
- ・P(Pressure; 血圧): 血圧(収縮期)90mmHg以下

重症度分類

- ・上記項目のいずれにも該当しない場合は軽症
- ・上記項目の1つ、または2つに該当する場合は中等症
- ・上記項目の3つに該当する場合は重症
- ・上記項目の4つ以上に該当する場合、または1項目のみの該当であってもショック症状が見られた場合は超重症

定義

入院のきっかけとなった傷病名、および最も医療資源を投入した傷病名が、肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(DPCコード:040080相当)であるものとし、インフルエンザ等のウイルス性肺炎(DPCコード:040070相当)、及び誤嚥性肺炎(DPCコード:040081)は除外とする。入院後発症の肺炎、一般病棟以外からの転入、他

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	—	—	—
中等症	32	41.91	84.66
重症	—	—	—
超重症	—	—	—
不明	—	—	—

解説

患者数が10未満の数値には、—(ハイフン)を記入しています。
成人市中肺炎とは、病院外で社会生活を営む健康人に起こる肺炎を市中肺炎といいます。
当院に市中肺炎で入院される患者様の重症度は、中等症(外来ないし入院治療の適応となる)が32人で最も多い結果でした。
重症度分類の評価項目に、男性70歳以上・女性75歳以上に該当する項目があり、高齢化による影響で重症化する傾向にあります。